

## インターンシップ体験記 (海外インターンシップの場合は英語で記入)

ここからは大学の研究室とは異なる環境での研究生活について気づいた点について書く。大学の研究室と比べて一番大きな違いだと思ったのは、メンバー同士の交流および情報交換が非常に盛んである点だ。大学にいて話す人は、同じ研究室のメンバーか同じ授業を取っている人としか話す機会がほとんどない。イノベーションにはダイバーシティが必要だという人を多く見かけるが、現状の研究室生活ではこのダイバーシティが確保されているとは言い難い。インターン先はベンチャー企業で人数がまだそれほど多くないという理由もあるが、異分野の社員同士の交流の機会が積極的に作られている。オフィス内部の写真の撮影はできないため、下の2枚の写真はHPに掲載されているものを持ってきた。オフィス内には café というスペースがあり、リラックスした環境で作業を行うことで生産性を高めたり、チームでのコミュニケーションを促進するグループワークエリアなどがある。またカウンターではコーヒーなどを飲みながら話をする事ができる。このスペースを上手に活用することで、様々な交流を生み出し、人間関係のダイバーシティが確保されていると感じた。



← 社内で提供されるケータリングランチ

<https://www.preferred-networks.jp/ja/news/pr20180703>

もう一つ大学と大きく違うと感じたのは、研究開発を基本チームで行うことである。大学では基本的に個人で研究を行い、そこに先生がアドバイスをするという形が中心である。チームでのコーディングや git の活用は初めての経験だった。README やコメントの書き方など、情報共有やコードのコンフリクトの回避などが重要であることを実感できた。

また社員さんが自分とは別のプロジェクトへも非常に協力的だと感じた。文化としてプロジェクトに新たな専門性が必要になった時に、気軽にその専門性を持った人に声をかけることができる。また声をかけられた人も積極的に専門性を生かそうと行動してくれていると思った。大学でも気軽にそのようなことができる環境が整備されると嬉しい。

インターン中は作業が最大で 8 時間と決まっており、限られた時間で成果を出していく必要があった。大学であれば締め切りは決まっているが、徹夜などを使えば作業時間は自由に確保することができる。従って時間にルーズになってしまうことが多い。インターン中では決められた 8 時間という時間の中で最大限の進捗を産むため、自然と時間の使い方に気を配るようになった。今やるべきこと、後に回せるものを常に考えるようになった。また休憩の取り方も今までほとんど考えることがなかったが、集中が続く時間や生産性が落ちて来たタイミングなど取ることで、進捗を増やすことができたと思う。

## インターンシップ体験記 (続き)

最後に情報技術者にとって東京が場所としてやはり魅力的であると感じた。インターン期間中の 2 ヶ月間の中でも、勉強会やエンジニアの交流会など様々なイベントに参加することができた。「全脳アーキテクチャ若手の会」や「Kubeflow Meetup」などあり、人脈作りやツールの使い方などを勉強することができた。「全脳アーキテクチャ若手の会」では代表の八木さんと直接お話しさせていただく機会があり、NEC の研究所のエンジニアの方に自分の大学の研究についてアドバイスをもらうことができた。大学ではなく企業の研究所という視点で、技術と社会の需要をどのように擦り合わせるコツについて教えていただくことができた。Kubeflow の勉強会では、研究室で問題となっている GPU 活用効率をあげる方法についてのヒントが得られた。実際に研究室で整備してみたい。

週末はデジタル技術を応用した美術館などのイベントが数多く開催されており、期間中は「Audio Architecture 展」(左)と「TeamLab borderless」(中央, 右)などを訪れることができた。Audio Architecture 展は 1 つの曲に対し、複数のクリエイターが映像をつけるというものだ。曲調の解釈は似ているが表現の方法が一人一人全く違っており、その発想に驚きを覚えた。TeamLab は 3D プロジェクションマッピングや、ビーム、ホログラムなどのデジタル技術によって構成された光の空間をさまようというものである。絵画などとは違い映像なので時間変化がある。それだけでなくセンサによって鑑賞者と作品がインタラクションをするので、2 度と同じ作品を見ることができない。TeamLab の根本には浮世絵的な時空間表現の思想があり、昔ながらの表現と最新技術が組み合わせることで、これほど人と惹きつけるものができるのかと非常に感心した。



インターン期間中の滞在先である清澄白河は落ち着いた街で、快適に過ごすことができた。滞在先の周辺は喫茶店が有名であり、滞在先の週末に何度か訪れた。コーヒーにこだわったお店もあれば、勉強などがしやすい作業スペースとしてのカフェも多くあった。チェーン店は少なく個人営業のお店が多いため閉店は早い。勤務後に帰ると空いているお店がないのは唯一の難点であった。

2 ヶ月間に渡り貴重な経験を数多く提供して下さった、インターン受け入れ先の皆様に心から感謝したい。また今回得た経験を大学での研究に生かしていきたい。